

令和元年度第1回県立長野図書館協議会議事要録

1 日時

令和元年（2019年）8月8日（木） 午後1時～午後4時

2 場所

県立長野図書館 研修室

3 出席者

<委員（五十音順）>

森 いづみ会長 大林 晃美委員 篠原 由美子委員 辻井 まどか委員
西山 卓郎委員 町田 典幸委員

<長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課>

刈間主事

<県立長野図書館>

平賀館長 中村次長兼総務課長 荻原企画協力課長 柳沢資料情報課長 町田資料係長
伊藤情報係長 山崎専門幹 柳沢主幹 関主査 朝倉主査 小澤主査 槌賀主査
西山主任 畔上主事 新井主事

4 会議次第

(1) 開 会

(2) 館長あいさつ

(3) 職員紹介

(4) 会議事項

ア 「信州・学び創造ラボ」について

イ 県立長野図書館の現況について

ウ その他

(5) 閉 会

5 会議の概要

(1) 館長あいさつ（要旨）

本日は、手短かに前年度の事業報告を申し上げた後に、自由に意見交換というかたちで進めさせていただきたい。前回の協議会で、図書館のビジョンについて次回にはご検討いただきたいというお話しをしたが、言葉の整理やアクションプランなどの点で議論が尽きていないので、また改めて、早い時期にお示しをして議論できればと思っている。

(2) 県立長野図書館の現況について

資料により3人の課長から説明

(3) 委員との主な質疑応答

質 疑	応 答
・高校との相互貸借が減少した理由は何か。	・各高校には「学校図書館蔵書管理システム」が入っている。そのシステムが平成25年度から平成27年度にかけて更新され、今まで単館で学校ごとに管理していたものが、全県でネットワーク化された。 ・この結果、これまで単館の状態では自分の学校の蔵書の状況しか分からなかったものが、ネットワーク化により全県で欲しいものがどの学校にあるか分かるようになり、高校同士で相互

	<p>貸借が進んだ。県立で補助しなくても学校同士でのやり取りが進むようになったのが一番の要因である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク化すると利用が活性化し、利便性が高まるという良い事例である。
<ul style="list-style-type: none"> ・データベース利用について、県立図書館へ直接来なくても、地域の基幹館のような図書館を作ってサービスを導入していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約上、来館された方へのサービスしかできないのが、現状である。市町村図書館からのレファレンスとか、直接こちらへ利用者の方からリクエストがあり、データベースで検索して回答しているものもある。 ・広域利用については、データベースを提供している会社とその可能性について確認したところ、検討段階のところもあるが、現在はできないという回答をもらったところもある。 ・同じような悩みを抱えている全国の県立図書館と連携して、強い交渉力を持ってデータベース会社と交渉していくということから、以前から興味を持っている鳥取県と話をしながらアプローチをしてきている。 ・新聞のデータベースについて、ブロック利用、複数館利用によるコストの削減を各社に働きかけており、今のところ興味を持っているのは、程度の差はあるが、朝日新聞、読売新聞、信濃毎日新聞である。
<ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館のデータベースの利用率はどのくらいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況を全体的に見ると、新聞のデータベースに関してはかなり利用がある。一番多いのは地元紙の信濃毎日新聞であるが、その他の全国紙についてもかなりコンスタントに利用されている。 ・平成 30 年度の利用を見ると、信濃毎日新聞で年間約 400 人、朝日新聞で年間約 70 人である。さらに複写の枚数だと信濃毎日新聞は約 3,000 枚となっている。 ・しかし、その他のデータベースについては、こちらのPR不足ということもあり、利用が少ないものがある。 ・市場情報評価ナビという市場調査については、県内で他に導入されている館はないが、実際にどのようなことができるかといったPRが不足していることもあり、年間の利用者が一桁である。 ・各データベースが実際にどのようなことができるのか、もう少し分かりやすい形でPRして利用してもらえるようにしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・公立図書館からのレファレンスの依頼はどのくらいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立図書館からのレファレンスの件数は集計していないが、公立図書館と学校図書館を含めた感触としては、月に 1 件から 2 件程度である。 ・学校図書館からのレファレンスの依頼は少し増えているが、公立図書館からのレファレンスの依頼は以前よりも少ない印象である。 ・参考までに、平成 30 年度の図書館や行政機関へのレファレンスの件数は 81 件である。

<p>・県立図書館では県内の各図書館への巡回等はどのように行っているか。</p>	<p>・職員数が少ないこともあり、広い県内を個別に図書館を巡回することにはどうしても無理がある。</p> <p>・このため、各広域単位での事務担当者会議とか地域の定例会議といった各館が一堂に会する機会に重点的にお伺いしている。</p> <p>・県立図書館でも全県で研修会を開催したり、様々なフォーラムへの参加の声掛けも行っているが、参加される館は限定的である。</p>
<p>・「信州・学び創造ラボ」が出来たことによりどのような変化があったか。</p>	<p>・今まで一人で勉強していた学生が友達同士・仲間同士で来て、ホワイトボードを使用し自分の勉強をそこに書いてシェアしながら、皆でディスカッションするような風景が当たり前に見られるようになってきている。</p> <p>・これまでは一人の学びの場として図書館が利用されていたものが、誰かと一緒に何かをすることにより、少し違う何か新しい変化が生まれていると思われる。</p> <p>・誰かがミーティングや何かちょっとしたイベントをしていることで、隣に座って勉強している人が自然と引き込まれ、予期しない出会いだとか、人とのつながりが自然に生まれるような感じがしている。</p>
<p>・「ものづくりラボ」については、前回技術的な問題で、あまり利用できる状況になっていないと聞いたが、現状はどうか。</p>	<p>・「ものづくりラボ」の恒常的運用はまだ出来ていないが、誰かが教えて教わってという関係性ではなく、教わった人が今度は教えられるような状況に整えるための準備に取り組んでいるところである。</p> <p>・今年の4月27日には「信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター・Fablab 長野」と「株式会社アソビズム」と三者協定を結び、連携したイベントを定例的に行っている。</p> <p>・そこでは、「触ってもらおう・知ってもらおう・面白がってもらおう」ということをメインに、その他色々なソフトとかハードを使える人を中心にコミュニティづくりに取り組んでいる。</p> <p>・今はまだ何となくラボを活用する中でたまたまできた関係性や顔見知りという狭い段階での状態なので、これをもっと広めていこうとコミュニティを育てている。</p> <p>・その他、職員による工作教室を定例化して月1回程度行っているほか、外部団体の方の利用や大学の講義の一部の実施といったことも見られる。</p> <p>・ただ、毎日、利用したい方が全員利用できるという環境には少し時間がかかるということをご理解いただき、またご助言をいただきながら利用できる日を増やしていきたいと考えている。</p>
<p>・嘱託職員については、雇用の年限があり、継続雇用が難しいが、県立図書館ではどのようにしているか。</p>	<p>・県の嘱託職員についても年限があり、嘱託司書は3年であったが、2年前から5年に引き上げている。5年経過したところで、3か月あけ</p>

	<p>るとまた5年雇用できるという状況である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度から会計年度任用職員制度が一律に導入される中で、当館ではフルタイム型とパートタイム型の2種類での運用を考えている。 ・フルタイム型については、任用期限は5年以上を要望しているが詳細は未定である。 ・パートタイム型についても任用期限は5年となっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館の館全体のサイン計画はどのように考えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定常的なサイン・指示は、基本的には全部剥がし、一時的な形でやっているのが現在の状態である。 ・これは、この館の利用の仕方は、ここを利用している方と議論しながら決めていく、つまり、この利用の仕方はここを利用したい方の自治に委ねるという方策を取ろうとしているということである。 ・オープン前のワークショップからサインも皆で作ろうというアイデアも出ていたので、いずれ「ものづくりラボ」の運用も含めてサイン作りも始まれば良いと考えている。

(4) 委員からの要望事項

- 現在の県立図書館のホームページは、下までスクロールしないと全体が見えないので、レイアウトの改善をお願いしたい。
- 以前、県立図書館で作成したリクエストやレファレンス、県内図書館の相互貸借等の関係をまとめた冊子が最新の情報ではないので、更新をお願いしたい。
- 県民全体にサービスすることと市町村の図書館をサポートすることが県立図書館の大きな役割である。インターネット貸出しで各館の仲立ちが増えると、市町村の負担が増えてくる。相互貸借がもっとスムーズに行われるようなシステムを考えてほしい。
- ビジョンに盛り込んでほしい観点については、次のとおり。
 - ・県民一人一人にサービスすることと地域の図書館をサポートしていくということについて、どうしたら隅々まできちんと行き渡るシステムができるかということを考えてほしい。
 - ・引き続き郷土資料について、収集とアクセスの充実及びアクセスの保障を考えてほしい。
 - ・児童サービスや学校図書館支援の研修等をサポートしてほしい。
 - ・現在、ネットのSNSを始めとする様々な情報発信の弊害が見られるので、情報リテラシーを育てていくような研修や講座の開設をお願いしたい。
 - ・県立図書館まで出向くアクセスの難しい地域や人のことを考えながら、様々な最新の機器と技術を利用し、どこからでもフォーラム等に参加できるようにしてほしい。
 - ・市町村立図書館や県民の方に、ネット環境の無い方や、ネット環境はあっても使いこなせない方も含めて、県立図書館が直接行うサービスについてのPRを続けていってほしい。
 - ・障がい者向けのサービスをどうするか等、市町村単位では難しいことを県立図書館で研究を進め、バックアップしてほしい。
 - ・職員の雇用環境が年々厳しい状況になっているので、市町村図書館の職員の自立を促すとともに雇用条件改善の働きかけをお願いしたい。
 - ・今後、人口減少、税収減少等図書館を取り巻く環境は厳しくなっていくので、民間事業者や県民の方々等外の力も上手に使い、それぞれ得意な所を活かしながら協力関係を築いていってほしい。これこそが、「信州・学び創造ラボ」の目指すものではないか。

- ・インターネットが発達し、調べものにしてもインターネットを使えば出来てしまう状況にあって、今の子どもたちが将来大人になったときでも公共図書館を利用してもらえるよう、10年20年30年という長い目で魅力ある図書館づくりをしてほしい。
- ・信州大学では、県立図書館、県立歴史館、信濃美術館と一緒にここ数年MLA連携に取り組んでいるが、県立図書館も図書館だけに閉じない中でビジョンを考えてほしい。全ての課題を県立図書館だけで抱えるには重すぎるので、色々な立場の色々な人の力を結集しそれを体現出来るようなことをビジョンに盛り込んでいただきたい。その上で、それを県に対してはっきりと示し、人とお金が確実に来るようにしていただきたい。

6 その他

- 以上の意見交換の結果を踏まえ、県立図書館ではビジョンのたたき台を作成し、次回の協議会でご審議いただき、ビジョン案を決定することとした。
- 会議の終了後に、館内特に「信州・学び創造ラボ」の視察を行い、その後、委員と職員との茶話会を実施した。